# ITSコンテスト 2026、受賞者発表！

2026.03.23 FASHION | NEWS
#パリ支局

ITS 2026の授賞セレモニーにて。中央はITSの創設者バルバラ・フランキン（Barbara Franchin）、左は昨年のグランプリ受賞者マキシミリアン・レイナー（Maximilian Raynor）、右は今年の受賞者クロエ・レーネルス（Chloë Reners）。© B.P.B. Paris

## 単なる優劣の評価ではないコンテスト

イッツ（ITS＝INTERNATIONAL TALENT SUPPORT）は、北イタリアのトリエステを拠点とする国際コンテスト。2002年に補足し、デムナ（バレンシアガ）、マチュー・ブレイジー（シャネル）、ニコラス・デ・フェリーチェ（クレージュ）など、現在のファッションシーンを牽引するデザイナーを輩出してきた。

2026年度版では、74か国から700以上の応募があり、選出された10人にITSクリエイティブ・エクセレンス賞（ITS Creative Excellence Award 10x10x10）とOTB賞（OTB Award）を授与。ITSクリエイティブ・エクセレンス賞の副賞として、10日間のレジデンスプログラム、10,000ユーロ（約185万円）の助成金、モード美術館「ITS アルカデミー（ITS Arcademy – Museum of Art in Fashion）」での10か月間の作品展示が約束された。

RISE AND SHINE

審査員と受賞者たち。コンテストの中心に据えられた今年のテーマは『Rise and Shine（立ち上がり、輝け）』。「これは、挑戦を受け入れ、自分自身の声を見つけ、最善を尽くすこと。シンプルでありながら力強い呼びかけです」とバルバラ（前列左端）。© G. Koren / Courtesy of ITS

ADのあとに記事が続きます

ブンカ100歳
×
装苑
©ken kagami

レジデンスプログラムでは、OTBグループ本社への訪問、スウォッチ（SWATCH）での実験的ワークショップ、ピッティ・イマージネ（Pitti Immagine）による専門的指導など、多角的な学びの機会が提供された。本コンテストの特徴は、こうしたファッションのプロフェッショナルとデザイナーを結びつけ、実践的な成長を促す仕組みにある。

2026年の受賞者10人。© Giovanni Aiello / Courtesy of ITS

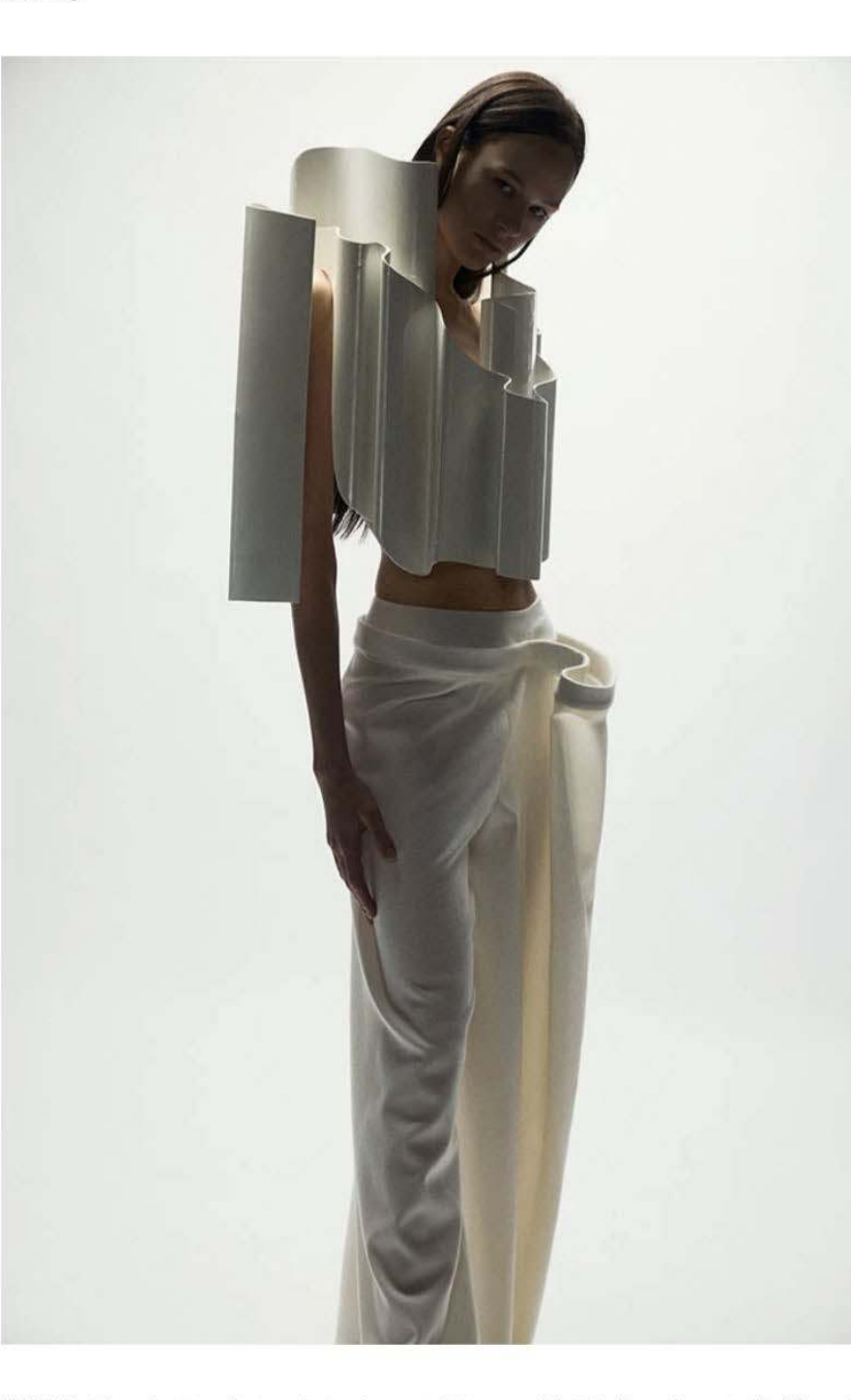
## 【審査員特別賞＆各賞】

さらに、今年は審査員特別賞をはじめ、スポンサーシップによる複数の賞が用意され、受賞者たちに各賞独自のサポートが付与された。

**クロエ・レーネルス（Chloë Reners）/ ベルギー**
**★審査員特別賞（JURY SPECIAL MENTION）**
注目の審査員特別賞に輝いたのは、ベルギー出身のクロエ・レーネルス（Chloë Reners）。昨年、アントワープ王立芸術アカデミーを修了したクロエは、現在、パリのスキャパレリでジュニアデザイナーを務めている。

© B.P.B. Paris

受賞作品は、シュルレアリスムにおける女性の描かれ方から発想を広げたウィメンズコレクションである。とりわけイギリス人画家ジョージ・アンダーウッドの絵画に着目し、断片化や変形によって再構築されてきた身体像を参照している。そうしたイメージが現実認識や理想化された女性像の形成にどのように作用してきたのかを浮かび上がらせる試みであり、アンダーウッドが提示した視覚的な意味や価値をファッションの領域で再解釈した点が高く評価された。



トップスは硬質な樹脂を用いた3Dプリントによってドレープを形成。ウール素材のボトムも身体から浮くような構造で、波打つドレープとともに彫刻的なシルエットを描いている。

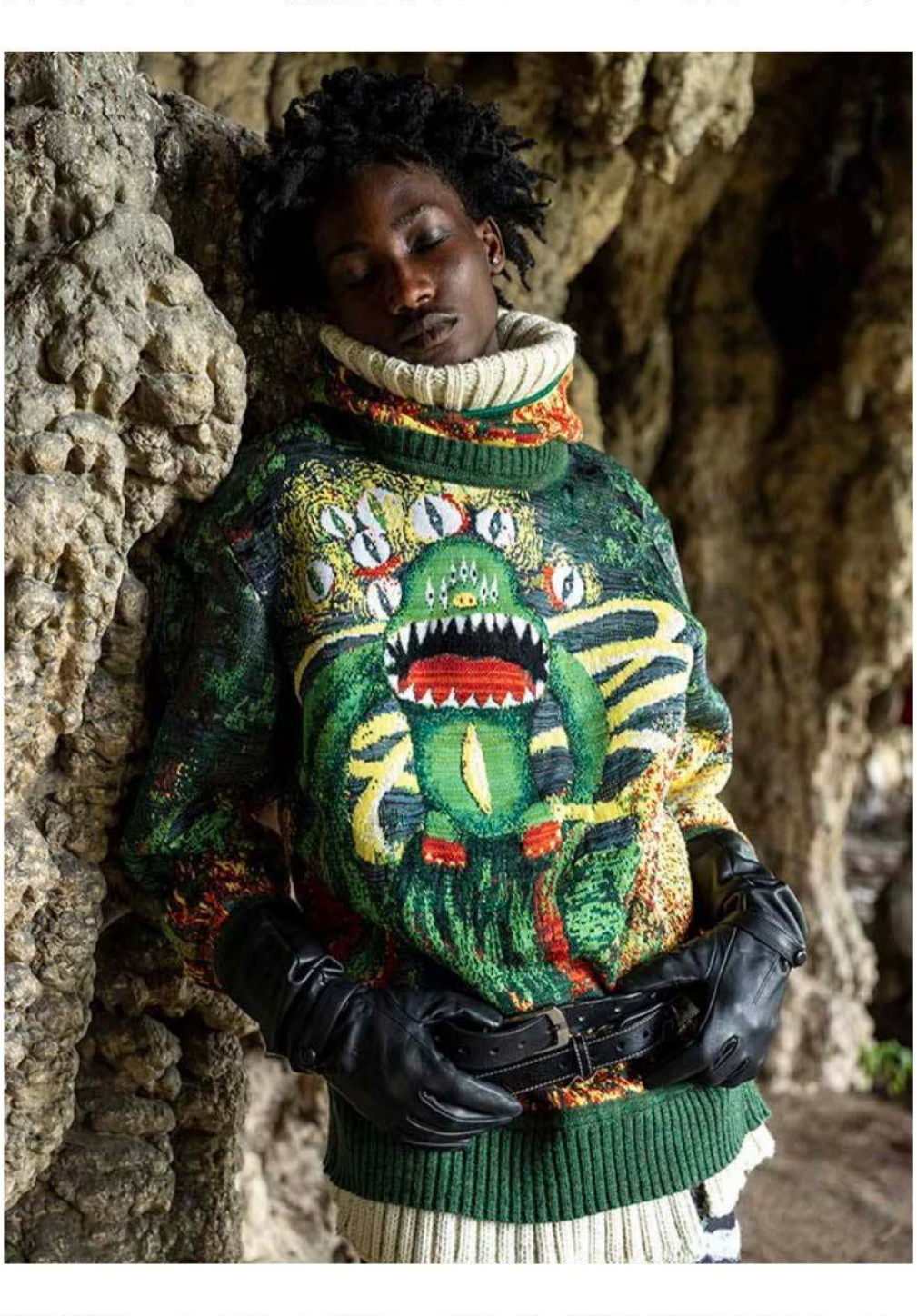
受賞後、クロエは「感謝の気持ちでいっぱいです。この経験自体に感謝していますし、賞をいただけたのは、まさに最高のご褒美です。本当にありがとうございました」と、喜びの気持ちをコメント。
「デザイナーを目指す人に声をかけるとしたら、夢を見ることを決してやめないでと言いたいです。いい意味で現実離れした夢を持ち、夢を見る勇気を持つことが大切です」

審査員特別賞の副賞は、メンタリングやネットワーク形成などを含む継続的なサポート。またクロエは、次回のイッツに審査員として参加することになる。

**ウェンジー・ウー（Wenji Wu）/ 中国**
**★カメラ・ナツィオナーレ・デラ・モーダ・イタリアーナ賞（Camera Nazionale della Moda Italiana Award）**
**★モダテカ・ディアナ賞（Modateca Deanna Award）**

© B.P.B. Paris

ウェンジー・ウーは、幼少期から繰り返し見てきた悪夢を着想源に、夢に現れる怪物と守護者という二つの存在の対立を軸にコレクションを構成。ユングの理論を背景に、怪物を抑圧された自己の側面として捉え、その均衡を衣服に落とし込んだ。ニットを中心に複数の技法や素材を組み合わせ、夢のイメージを立体的に可視化。伝統的な技術と現代的な表現を結びつけ、新たなニットの可能性を示すクリエイションを見せている。

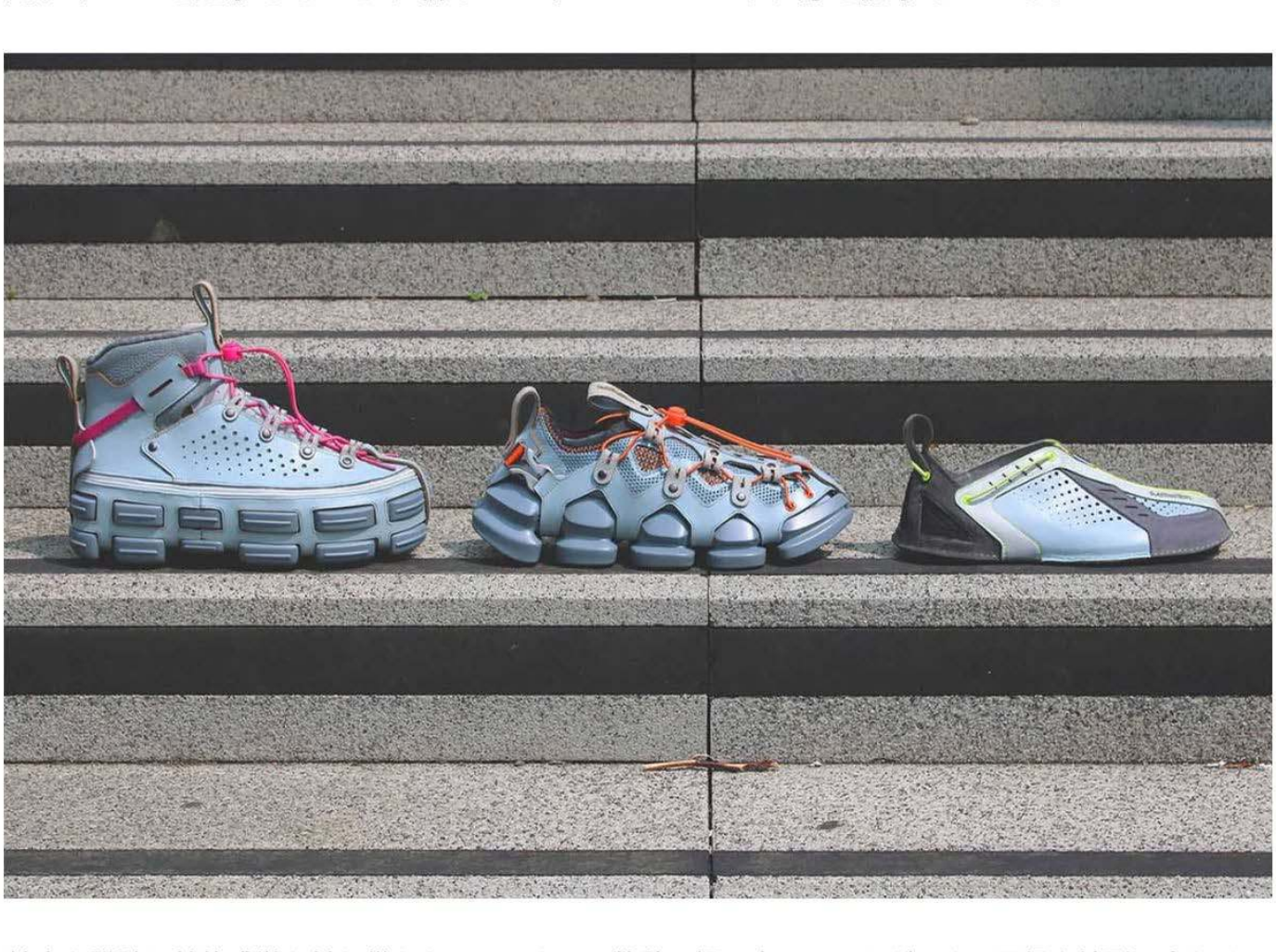


複数の編み技術を基盤に、フェルティングやフォイリング、刺繍などを組み合わせ、ニットで多層的なテクスチャーを構築。さらに多種の糸を用いて色や質感を重ねることで、空想の世界を豊かに表現している。

**ジェイミー・オグレイディ（Jamie O'Grady）/ イギリス**
**★フェラガモ財団賞（Fondazione Ferragamo Award）**
**★ラード・アワード（WRÅD Award）**

© B.P.B. Paris

ジェイミー・オグレイディはスニーカーのコレクションで受賞。接着剤を使わないモジュール構造を採用し、従来の靴づくりのプロセスやライフサイクルを再考する。組み立て可能な設計により、パーツ交換、分解、リサイクルを容易にし、持続可能性と実用性を両立。ドイツの工業デザイナーであるディーター・ラムスの思想に基づき、機能性や倫理的デザインを追求しながら、新しいフットウェアのあり方を提示している。

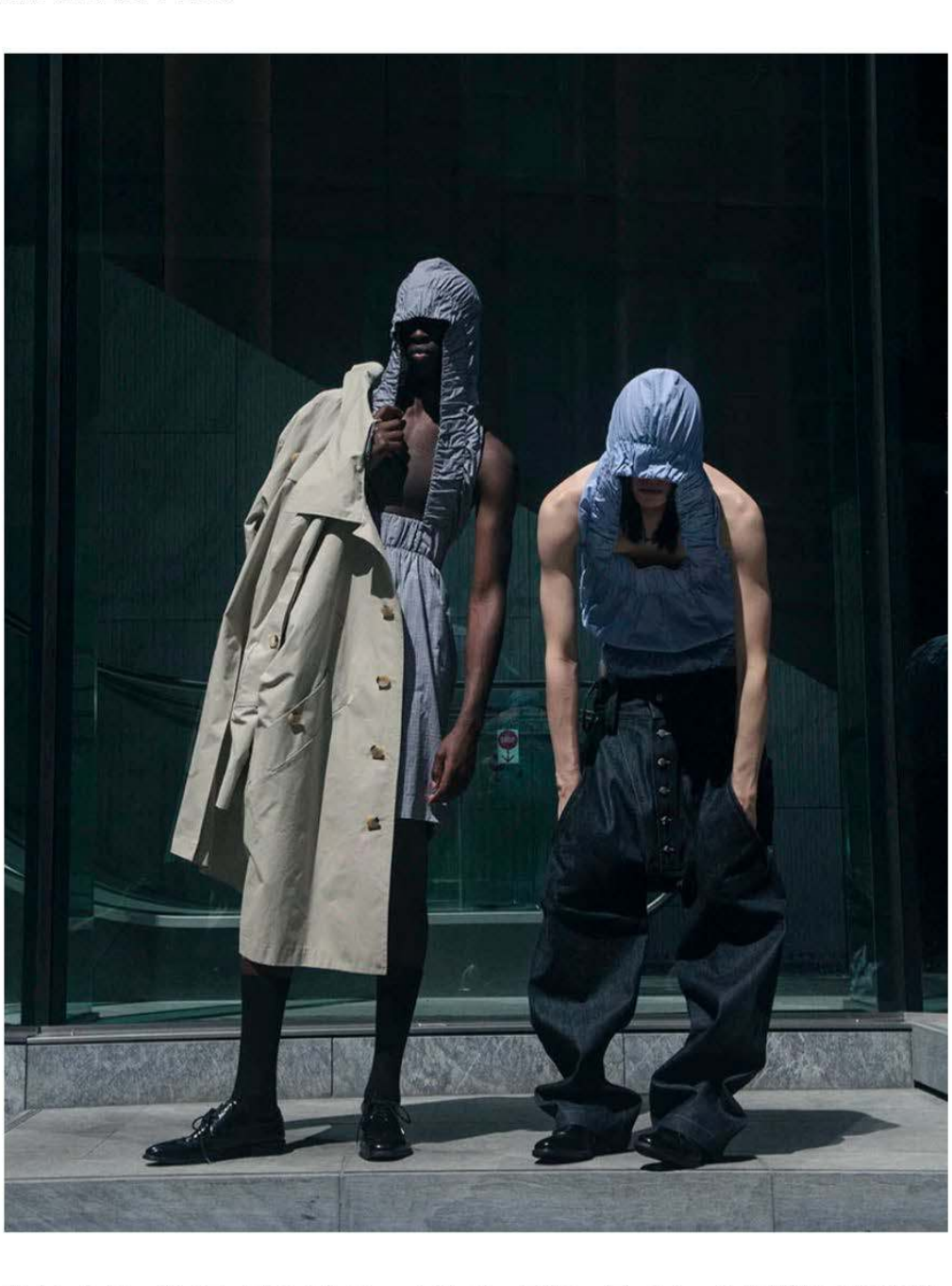


精密な設計と美的感覚を兼ね備えたスニーカー。数秒で組み立てることができ、天候や地形に合わせてパーツを交換することが可能。各パーツを単一素材で構成することで、リサイクル性と持続可能性を高めている。

**ウィリアム・パーマー（William Palmer）/ イギリス**
**★ピッティ・イマージネ賞（Pitti Immagine Award）**

© B.P.B. Paris

ウィリアム・パーマーの作品のタイトルは「Breadwinner（大黒柱）」。"家族を養う者"という役割に伴うプレッシャーやラッド・カルチャーといったイギリスの男性性を扱いつつ、ポロシャツ、ハリントンジャケット、ジーンズなど、メンズの定番アイテムをユーモアとアイロニーを通して再解釈。噛み跡付きのパン形バッグやティーカップ形ハットなど、小物にも遊び心のあるデザインが光る。社会的テーマを高い完成度で衣服として成立させている点が評価された。

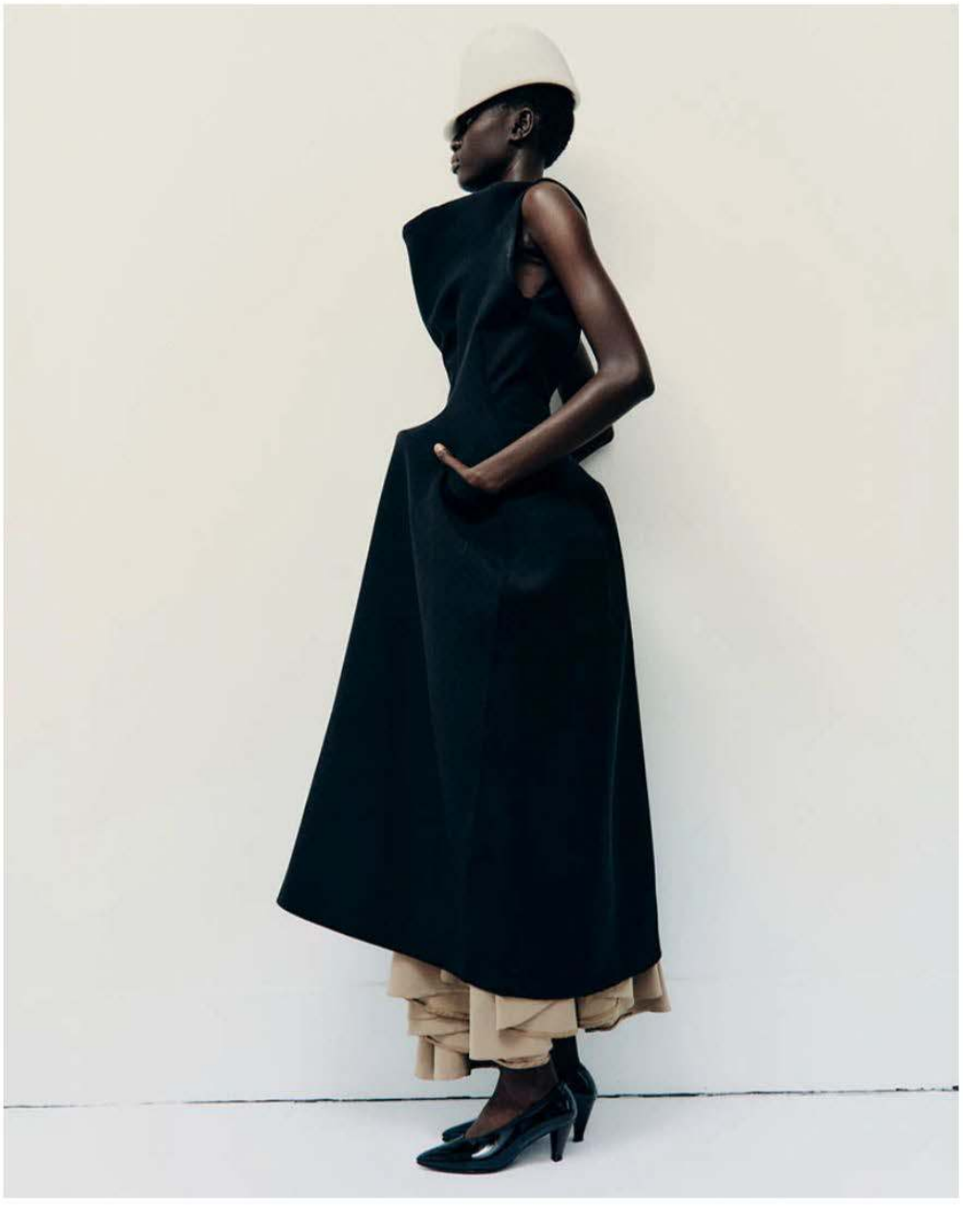


トレンチやデニムといったメンズのクラシックをベースに、ディテールを誇張するなど、独自のアプローチで現代的なワードローブを提案する。下着とフーディーのハイブリッドアイテムもユニーク。

**ティジャヌ・タル（Tidjane Tall）/ フランス**
**★ソッツァーニ財団賞（Fondazione Sozzani Award）**

© B.P.B. Paris

ティジャーヌ・タルは、ブラックネス（黒人の歴史や文化、社会的経験に根ざしたアイデンティティ）やエレガンスを軸に、家族の記憶や文化的背景を織り込みながらコレクションを構築。1970年代のコートジボワールにあった祖父のナイトクラブの記録、陶芸家マグダレン・オドゥンドの造形、女性の髪を主題とした写真家エミリー・レニエの作品も着想源になった。シンプルさの中に力強い存在感を宿す彫刻的なシルエットが印象的。

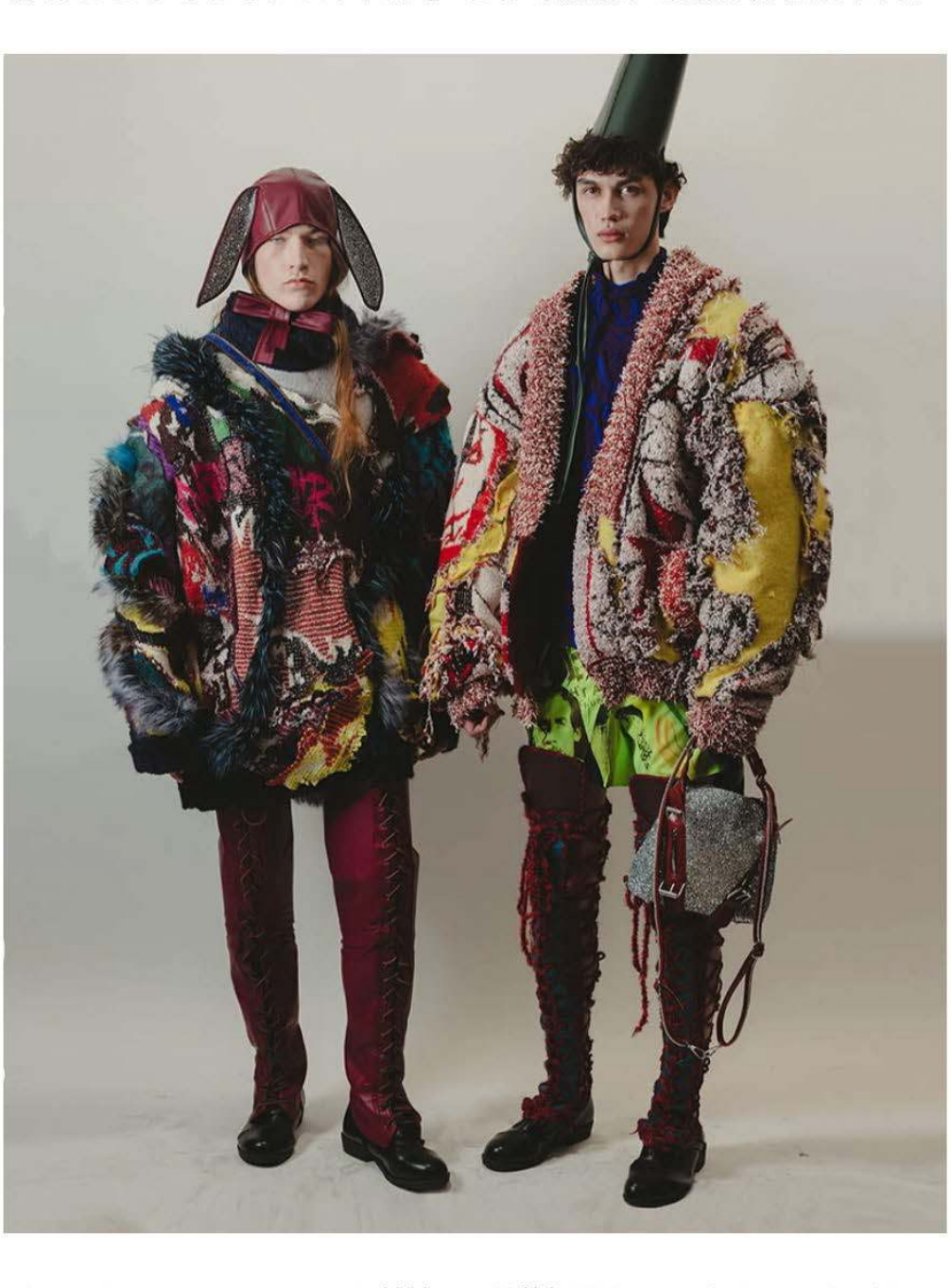


既存のラグジュアリーやオートクチュールの価値観と対話しながら、その規範を再解釈。自身のアイデンティティ、装飾性、身体表現を通じて、力みのない自然なエレガンスを追求している。

**スティーヴン・シュヴァリエ（Steven Chevallier）/ フランス**
**★レイバン賞（Ray-Ban Award）**

© B.P.B. Paris

スティーヴン・シュヴァリエのコレクションは、現代の社会的・政治的状況に対する強い問題意識から生まれている。戦争や抗議運動、保守化する社会の中で抑圧される人々への怒りを起点に、クィアアーティストや1980年代のエイズ危機の歴史から、自由や権利をめぐる闘いを表現する。スティーヴンの作品は、確かな技術とグラフィック表現を基盤に構築され、「着ることのできるプロテスト」として機能する点が評価された。



インターシャやジャカードによるニットを基軸に、昇華転写やペーパーヤーンなどをミックス。グラフィックなモチーフ、色と質感の操作により、コレクションのメッセージ性を視覚的に強化している。

## 昨年のグランプリ受賞者に聞く

昨年のグランプリ受賞者で、今年は審査員として参加したマキシミリアン・レイナーは、ロンドン・ファッションウィークに公式参加する期待の若手。この一年を「本当にエキサイティングだった」と振り返る。

© B.P.B. Paris

「昨年は、イッツのイベントの１週間前にロンドン・ファッションウィークでデビューしたばかりでした。当時はその余韻を消化しきれていない状態でしたが、受賞できたことで自分の方向性が認められたと感じ、自信を持って前に進むことができたんですよね。その後、ミュージックビデオの監督やハリウッド俳優との仕事も行い、アイウェアブランドや老舗ニットブランド、イギリスのスポーツウェアブランド『ゴーラ（GOLA）』とのコラボレーションも実現しました。

現在「ITS アルカデミー」で開催中の展覧会『The Power of Being Seen, from Harry Styles to Lady Gaga』にて。左のドレスは、マキシミリアンの受賞作品。Photo : Courtesy of ITS

こうして再びこの場に戻り、審査員として参加できたことも大きな意味を持っています。このコミュニティの一員として認められたことはすばらしい経験でしたし、自分が憧れ、提携したいと願う人々と、さらなる接点を持つことができました。

今回受賞したクロエは非常に魅力的で、威厳と配慮を備えたリーダーシップを持つ人物だと思います。デザイン業界の上層にはより多くの女性の声が必要だと考えていますが、彼女はその道を切り開いていく存在であると感じています」

SPECIAL
MENTION
Chloë Reners

「私は日本のクリエイティビティを愛し、心から尊敬しています。日本からの応募を待っています！」とバルバラ（中央）。© B.P.B. Paris